後立山・双子尾根、小蓮華尾根下降

メンバー：斉藤（単独）

日程：2012年5月4日～5日

残雪期のシーズンも終わりに近づくにつれ、何かやり残した事があるような気がしてならない。この冬はアイスクライミングを初め、充実した山行をこなしてきたつもりでいたが、一番の目標においていた「一ノ倉沢・滝沢第三スラブ」は天候に恵まれず、取り付く事さえ出来なかった。天気が相手ではしょうがない事ではあるのだろうが、「しょうがない」の一言で片付ける事が出来ない程「三スラ」は自分の中で大きなモノになっていた。そんなポッカリ空いた穴を埋めるべく、雪を纏った山に一人で行ってみたくなり、この山行を計画した。

5/4　昼間の内に自宅を出発し白馬村へと向かう。白馬村に近づくにつれ降りだした雨はいよいよ強くなる。事前にメールにて入手した猪熊氏の天気予報では、5月の4日と6日は大荒れとの事だが、今、稜線で取り残されている登山者はいないか、と心配になる。夕食と温泉での入浴を済ませると、コンビニで酒とつまみを買いこみ、入山口となる猿倉へと車を走らせる。猿倉では臨時駐車場まで多くの車で埋まり、人気の高さが伺える。臨時駐車場の端に車を停めると狭いジムニーの中で、一人入山祝いをする。強い雨にとてもテントを張る気にはなれず、車の中で寝る事とする。夜中に何度か強風に車を揺り動かされ、睡眠を邪魔される。

5/5　まだ暗い内に食事と身支度を済ませ、夜明けと共に出発する。雨は寝ている間に止んだようだ。猿倉荘の裏から急斜面を一登りで猿倉大地へと飛び出し、双子尾根も見えてくる。残念ながら頂上稜線付近は終始ガスって

顔を覗かせる事は無かった。暫し猿倉台地での徒行を楽しんだ後、小日向のコルへ向けての登りが始まる。

猿倉台地から双子尾根を望む

息を上げながらもピッケルとアイゼンで雪面をとらえ、高度を上げるこの一歩一歩は気持ちのいいものだ。小日向のコルに上がるとテントを張るには抜群のロケーションだ。

小日向のコル

小日向のコルから小蓮華尾根を遠望

テントを張っていた方に挨拶をすると、昨夜は強風でテントのポールが折れ、恐怖のあまり一睡もできなかった、と話を聞く。コルから一登りすると尾根状となり、大きなシュルンドを避けながらの登高となる。暫く尾根状を進むと樺平へと一旦下る。

杓子岳東壁

ここもテントを張るのに適した気持ちのいい場所だ。やはりここでも、一晩テント泊をし

た方から、昨夜は強風で顔にテントを押し付けられ息が出来なかった、という話を聞く。

手前に白馬岳主稜、奥に小蓮華山

八方尾根を遠望

樺平を越えると本格的な登りが始まる。その頃、大雪渓を隔てた白馬岳と小蓮華山を結ぶ稜線にヘリコプターが飛び交い、何かがあった事に気付く。長い登りを喘ぎながら登り、途中の岩場をフリーで越えると高度感も出てくる。いつの間にか霧に包まれ風も出始める。気を落ち着かせ、ナイフリッジと頂上直下の岩場を越えると杓子岳の山頂へと出る。

杓子岳の山頂から白馬岳方面へと一旦下るが、前日の風雪により辺り一面氷に覆われ、夏道を発見する事が出来ない。

氷に覆われた稜線付近の這松

エビのしっぽを纏った天狗菱

慎重に少し下ると、しっかりした登山道に出る事が出来た。稜線上は猛烈な西風でテントを張る事が出来ない為、丸山手前の登山道脇

に雪洞を掘り、その日の宿とする。

ホテル白馬？

外ではどんなに風が吹こうと、雪洞の中は平和そのものだ。時間を掛けて濡れ物を乾かす事とする。翌日 5/6 の天気予報は、暴風雪に雷、朝から風速 20m/s の風が吹き、その風も昼からは 26m/s になるという。酒を飲みながら地形図に入念に目を通すと、翌日に備え早目に寝袋に潜る事とする。

5/6　充分な睡眠から目覚め、朝食を摂り始めると、雪洞の入り口から雪が吹き込み始め、そそくさと片付けを始める。支度を済ませ雪洞から這い出すと、雪は止み息も出来ない程の風が吹き荒れている。まるで生き物のように湧き上がる雲に、暫し見惚れる。厳冬期と変わらぬ格好に身を包むと、小蓮華山方面へと、いざ出発する。一登りで大雪渓への下り口を過ぎると白馬山荘から続々と大雪渓へと下る登山者とすれ違う。上へ向かう者は当然、誰も居ない。白馬岳山頂に着いた頃、降り始めた雪は数分の内に本降りとなり、その後、みるみる内に暗くなる。

白馬岳山頂

気付いた時には雷雲の真っ只中にあった。暫くは周りでドッカンドッカンと賑やかであったが、稜線上に身を隠せるような場所などあるはずも無く、ひたすら歩き続ける。その後、何度か雷雲の通過があったが、一度はヤッケの中で体にビリビリとスパークした時には、

さすがに驚いた。風雪は時間が経つにつれ強くなり、三国境にさしかかると、とうとうホワイトアウトで身動きが取れなくなる。先が少しでも見えるまでその場で待ち続け、進んでは止まり、進んでは止まり、と繰り返し時間を掛けて足を進める。小蓮華山を越えると露岩が無くなりスノーリッジだけを頼りに足を進めるが、やがて、そのリッジも雪面に消えてしまい再びその場に停滞する。視界はせいぜい2m程、GPSの緯度、経度により現在地を確認する事が出来るが、ここまで視界が悪いとさすがに身動きが出来ない。暫くの間、立ち止まっていると、横殴りの湿雪は身体中にベルグラを張り始める。体温がみるみる奪われていく。時計を見るとすでに 30 分も同じ場所に立ち止まっていた事に気付く。後を振り返るとすでに歩いて来たトレースは無い。このままではらちが明かないと、体中に張り付いた雪を払い除け、ピッケルで足元の雪面を探りながら、コンパスの示す方向に前進し始める。ジリジリと進むと進行方向の右手(南側)がすっぱりと切れ込んでいる事に気付く。その淵に沿って進むとやっとの事で、小蓮華尾根への下降点と思われる地点へと着いた。スッパリと落ちた雪壁の下を覗きこむが、霧が濃くて何も見えない。目を凝らして待ち続けると雪壁を 50m 程下った辺りに小蓮華尾根を一瞬、確認する事が出来た。即座にダブルアックスでのクライムダウンを始める。締まった雪面の上に厚さ 10cm 程の湿雪が張り付き、かなり緊張を強いられるクライムダウンであった。やっとの想いで尾根まで下るが、尾根上は積み重なったガレで、雪の乗った尾根はとても歩けるものでは無いと隣の沢に下りて再びダブルアックスのクライムダウンをひたすら強いられる。谷を中腹まで下るとようやく傾斜も落ち、初めて緊張から開放される。あとは、何の危険も無い雪渓を、今後の山行計画に想いを巡らせながらゆっくりと下る。高度が下がるにしたがい雪は雨へと変わ

り、駐車場に着く頃には全身ズブ濡れになってしまっていた。

今回の山行では予想以上の悪天候により、自然の息遣いを肌で感じられた素晴らしい経験に、大変満足した山行であった。

行程

5/5　猿倉 5:10～6:45 小日向のコル～8:45 樺平～12:10 杓子岳～13:15BP

5/6　BP6:45～7:45 白馬岳～9:30 小蓮華山～12:40 猿倉

追記

この 5 月 4 日から 6 日にかけて、白馬岳から小蓮華山の稜線（三国境付近）を初め、北アルプスで多くの遭難が発生した。

同じ山ヤとして、命を失われた方々のご冥福を祈ると共に、それらの遭難の原因を紐解き、同じ不幸を繰り返さぬよう努めなければならないと強く思う。